



K. R. 英語英文学科 3 年次

参加期間：2025 年 2 月 14 日～3 月 9 日（ 3 週間）

受 入 校： （ 学校名 Nossal High School ）（都市名 Berwick ）

I. 教育実習について

今回私が日本語教育のアシスタントとして行かせていただいたノッサル高校は、Year9 から Year12(日本で言う中学 3 年生から高校 3 年生)までが在籍する学校でした。メルボルンの中でも上位に入る程のエリート校で、受験をしてこの学校に入学しているそうです。そのため、学習に積極的な生徒が多く、真っすぐに素直な生徒がとても多かった印象です。主に日本語の授業に参加し、各クラス・学年のレベルに応じたアシスタントを行いました。例えば、Year 9 の生徒は日本語を必須で学習していることから、意欲的な生徒とそうでない生徒、または日本語のレベルにも差がありました。入学して間もなく、日本語の勉強を始めたばかりだったので、ひらがなやカタカナをかるた方式にして楽しみながら日本語に慣れ親しんでもらえるように工夫しました。特に Year 12 の生徒たちは日本語で日常会話ができるくらい日本語が上手で、授業内だけでなくランチタイムや休み時間に日常会話練習を行いました。授業以外の会話練習や文章の添削、相談等は生徒がフォームに予約を入れるシステムだったのですが、ほとんどの休み時間やランチタイムで予約が入り、とても意欲的な生徒が本当に多かったです。

日本語のクラス以外にも、先生方の協力の下で他の授業の見学に行きました。日本語のクラスでも同じことが言えるのですが、先生が教えるという事はほとんどなく、生徒が自らの力で答えを見いだしたり他の生徒たちと話し合いながら解決したりする授業がとても多かったです。また、全授業でタブレット端末を使用しており、教科書やノートを全く使っていませんでした。自分が思っているよりも ICT が教育現場において浸透しており、授業法や ICT の活用法など、とても勉強になることばかりでした。

日本語以外の先生方もとてもいい人たちばかりで、Staff Room では常に会話を楽しんでいます。20 分休憩やランチタイムでは、お菓子を食ったり飲み物を飲んだりしながら、観光名所や文化の違い、日本について知っていることなど沢山お話してくださいました。今もなお関係が続いており、4 月日本に旅行に来た先生方と会って京都を案内しました。ノッサル高校の生徒から先生方、そして環境などすべてがとても大好きになり、必ずまた会いに行こうと思っています！





イベント

2月24日から28日までの5日間、Harmony Week と呼ばれるオーストラリアの年間行事がありました。他国から移住してきた人々が多いことから、出身地に関わらず多様性を認め、帰属意識を持つために開催されています。ノッサル高校でもネイティブのオーストラリア人の生徒はほとんどおらず、本当に世界中の色々な国からオーストラリアに移住してきている生徒たちばかりでした。Harmony Week 最終日には、Culture Dress Up Day と呼ばれ、1日自国の伝統衣装を着て過ごす日がありました。私も日本人の先生に浴衣を貸して貰い、浴衣を着て1日過ごしました。このような日を設けていることから、本当に多様性があって、みんなが排他的になるのではなく、それを認め合える雰囲気と環境にすごく魅力を感じました。生徒たちも凄くいきいきとしており、私自身も色々な国について知ることができ、とてもいい日になりました。



Ⅱ. ホストファミリーについて

私が3週間お世話になったホストファミリーは、ノッサル高校の高校1年生の男子生徒の家庭でした。中国からオーストラリアに移住し、ホストマザーと息子の2人で暮らしていました。中国人の家庭だったため、夜ご飯の約7割が中国料理を食べていました。ランチは息子が毎日お弁当を作って学校に持っていき、夜は週末と平日週2日くらいは外食をしていました。水曜日は午前中で学校が終わるため、毎水曜日の放課後と2回の週末はいつも車で色々な場所に連れて行っていただきました。常に私がしたいこと、食べたいものなどを尋ねてくれ、本当の子どものように扱っていただきました。元々息子と2人で暮らしていることもあって、ご飯の時以外は各々の部屋にいるようなスタイルだったのですが、学校やお出かけから帰ってきた後は感想を聞いてくれたり、車の中で日常会話をしたりなど、幅広いトピックで会話をしていました。例えば、ホストマザーの過去や息子との向き合い方、人生における考え方、結婚観や恋愛トークなど、色々なことを知ることができて本当に楽しかったです。ホストマザーがとてもパワフルで行動力のある方だったので、思い立ったら即行動！をし、最終日のフライトの前にも朝早く起きてモーニングに行きました。リモートワークでとても忙しそうだったのですが、時間を作って頂いたことにとても感謝したいです！



Ⅲ. 参加希望者へのアドバイス

私は今回のプログラム参加が初めての海外でした。最初はフライトから言語の壁、ホームステイなど本当に不安で参加する勇気がありませんでした。(ロングフライトが怖く、国際課に飛行機が落ちないか相談しに行ったこともありました。(笑))しかし、友人や家族のアドレスと応援に勇気を持つことができ、挑戦することができました。不安に思っていたことや絶対にできないと思っていたことなど、すべてが無くなるくらい本当に楽しく充実した3週間でした。もし、迷っている人がいるのであれば是非参加してほしいです。

参加をするにあたってのアドバイスとして、事前に行きたい場所はある程度調べておくべきだと思います。私は5か所くらい事前に調べていたのですが、現地に到着してすぐホストマザーに、「どこ行きたい?行きたい場所どこ?」と聞かれ、その後も「他は?」の連続で少し困惑しました。もっともっと調べておけば、会話のネタにもなり、ホストマザーを困らすこともなく、またさらに色々な景色を見ることができたのかなと思います。そして、コミュニケーション力が足りないことを実感しました。これは言語に関係なく、話すトピックが見つからず沈黙の時間が長く勿体ないなと感じました。(特に息子は思春期だったこともあって、関わり方が難しかったです、)ホストマザーから話してくださることもあるのですが、話したいトピック(紹介したい日本の文化や自分自身の事など)を考え、それを英語で伝えられるようになっておくと、さらにホストファミリーとの距離が縮まると思います。せっかくの機会なので、やりたいこと、現地でしかできないことをしていい経験をしてきてください!!



M. M. 日本語日本文学科 1 年次

参加期間：2025 年 2 月 14 日～ 3 月 9 日（3 週間）

受入校：（学校名 Mernda Central College）（都市名 Mernda）

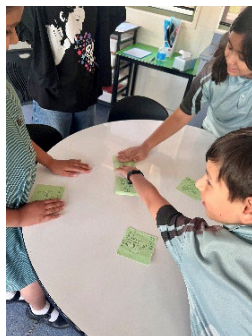
I. 教育実習について

今回受け入れてくださった Mernda Central College (MCC)は、日本で言う幼稚園の年長に当たる Prep から高校までである公立の一貫校で、私と英語英文学科の 2 年生の先輩と 2 人で教育実習に行きました。

日本語の授業は、日本人の先生 1 人とオーストラリア人の先生 5 人でした。授業は一コマ 60 分で、2 時間目が終わると recess という中休みがあり、その後 3,4 時間目、lunch time、5 時間目というスケジュールでした。recess の時間には職員のパーティーに参加したり、lunch time では卓球クラブに招かれて生徒達と試合をしたりと授業以外でも充実した時間を過ごしました。

MCC では、year1~8 は日本語が必修科目、year9~12 は選択科目でした。私は Prep 以外のほとんどの学年の授業に入り、会話練習や授業補助をしました。Junior school である year1~4 の授業では、節分の鬼のお面を作ったり、日本語での名前の言い方などを教えたりしました。「日本には本当に鬼がいるの？」と聞いてくる子や、会う度に習った言葉を使ってくれる子もいて、とても可愛かったです。Middle school である year5~8 の授業では、ひらがなの書き順や数の数え方を教えました。Senior school である year9~12 の授業では、長文読解や買い物などの日常で使う言葉を教えました。自ら日本語学習を選択した生徒のみの授業だったので、生徒達はとても熱心で、内容も高度でした。実用的な会話ができるようにと、lunch time に食事をしながら会話練習をしたこともありました。将来は日本で働きたいという夢を持つ子もあり、「次は日本で会おうね」と約束をしました。

また最終日には、先生方や生徒からプレゼントをいただきました。



イベント

3 週間の滞在中、MCC ではたくさんのイベントがありました。姉妹校である北九州の中学校の生徒たちが修学旅行に来たので、一緒にメルボルン市内の散策や交流会をしました。校内の行事では、Swimming carnival や Middle school の運動会もありました。特に Swimming carnival の、先生対 year12 のリレーはとても面白く、先生も生徒もみな生き生きとしていたことが印象的です。



Ⅱ. ホストファミリーについて

MCC に在学中の姉妹の家に滞在していました。毎日、姉妹と一緒に車で学校や習い事に行きました。食事はホストマザーがイタリア出身だったため、主にヨーロッパの料理を食べていました。料理上手で日本に興味がある方だったので、天ぷらうどんやトンカツを作ってくれました。私も一緒に生地からピザを作ったり、持参した焼肉のタレを使って肉じゃがを振舞ったりしました。出発前には食事が心配でパックご飯やインスタントスープをたくさん持っていきましたが、全く食べずに帰国前ホストファミリーにプレゼントしました。

ホストマザーは常に私に寄り添ってくれました。違う国から来た者同志、言語の壁や文化の違いを理解してくれました。日本から持っていったお土産も気に入ってくれ、お箸の正しい持ち方を教えたりもしました。

学校以外の時間を共に過ごしてくれたホストファミリーには本当に感謝しています。休日は別荘がある Torquay へ行ったり、姉妹が習っているバスケットボールの試合に付いて行ったり、公園で遊んだりしました。日によって出勤時間が変わるホストファミリーともたくさん遊び、たくさん話しました。

帰国する日、ホストマザーが夕食の準備をしていました。その時「今から食事の準備をするの。もちろんあなたの分もあるわよ。ずっとここにいるでしょ？ 私たちは家族なんだから。」と言ってくれて、泣きそうになりました。私は今でも第二の家族はオーストラリアにいて、また会いに行きたいと思っています。



Ⅲ. 参加希望者へのアドバイス

出発前は不安なことしかありませんでした。プログラム参加者の1年生は私を含め2人、学科では私のみ。親元を離れ、久しぶりの海外。飛行機に苦手意識を持っていた私は、乗り換えの香

Teaching Japanese as a Foreign Language



港までの約 4 時間フライトでさえも心配でした。現地では話についていけず、乾燥による喉の痛みや「towel」すら伝わらない私の英語力に落胆しました。日本に帰りたいと泣きながら寝たこともありました。しかし、終わってみるとこの 3 週間はあっという間でとても楽しく、自分に自信が付き、かけがえのない時間でした。今の私にとって現地で出会った人や経験は宝物であり、オーストラリアが大好きになりました。少しでも興味のある方は、ぜひ参加してみてください。

最後に、私が特に現地で困ったことは、気温と言語です。メルボルンは昼と夜でかなりの気温差がありました。そのためどんな天気にも合わせられるよう、半袖、長袖、上着を持っていきました。また日差しと乾燥が強いので、日焼け止めや日傘、サングラス、濡れマスクもあると良いです。言語はホストファミリーとの会話のため、英語のリスニングやスピーキングの練習をした方が良いと思います。私はネイティブの会話スピードに慣れるまでかなり時間がかかりました。また、学校では自然な日本語が求められます。より日常で使う言葉で話すように心がけました。

今回の 3 週間は MCC の皆さんとホストファミリー、英語英文学科の先輩のおかげで非常に充実した時間になりました。帰国してしばらく経った今でも、当時の写真や毎日書いていた日記を見返しています。在学中にもう一度、次は 4 週間でこのプログラムに参加しようと思っています。

